

新開航が力強く逃げて2度目のG I制覇
地元・若松クラシック出場に笑顔



桐生

10/6~11

GI

赤城雷神杯



シリーズ展開

ダブルDRの初日は毒島誠が逃げ、2日目は瓜生正義が2コース差して勝利した。初日に椎名豊、2日目は新開航、3日目は武田光史、4日目は馬場貴也がそれぞれ連勝し、日替わりヒーローが現れる中、DR組の土屋智則、山口剛はともに公傷で帰郷となった。予選1位は全3連対にまとめた新開、2位は武田、3位は中田竜太、ボイダーは5・80で山田祐也が18位に滑り込んだ。準優9Rは中田が逃げ、関浩哉は道中で毒島誠の猛追を退けた。10Rは椎名が2コースから差し、武田は久田敏之に競り勝って2着。11Rは逃げた新開、2Mさばいた瓜生で決着した。優勝戦は枠なり3対3。ダッシュ2艇が0台で飛び出したが、新開も10のスタートを決め、力強い旋回で逃げた。外マイの瓜生は2着を守り、福岡ワンツーゴールとなった。

現場記者の目

新開は昨年11月の常滑ダイヤモンドカップ以来でGI2回目、通算22回目、桐生では初の優勝を飾った。達成感に満ちた表情で「逃がますと宣言していたので、ホッとしています。仕上がりに関しては完璧。スタートは100点です。ターンマークを外したのでヤバイかなと思っただけ、しっかり舟が返ってききました」と振り返った。また、来年3月のクラシック出場権を獲得し「一般戦で今年2回しか優勝できていなかったもので、GIを勝つしかないなと思っていました。まずはそこを目標にしたい。瓜生さんには『真剣勝負で行くからな』と言われていたので、ワンツーを決められてうれしです」。F休みでチャレンジCは除外だが、年末の住之江以降、今後はSG戦線での活躍が楽しみになってきた。
(スポーツ報知・佐々木伸)

着	人気	艇番	選手名	年齢	支部	今回成績	進入	ST
1	◎	①	新開 航	28	福岡	211321	1	10
2	×	⑤	瓜生 正義	48	福岡	転212132	5	09
3		④	武田 光史	51	福井	251112	4	07
4	△	②	中田 竜太	36	埼玉	313211	2	13
5	○	③	椎名 豊	36	群馬	1136221	3	13
6		⑥	関 浩哉	29	群馬	4213242	6	12
2連単			①-⑤	860円	4番人気	逃げ		
3連単			①-⑤-④	5160円	22番人気			

賞金ランキング急上昇！
丸野一樹が徳山に続きG I連続V



浜名湖

10/3~8

GI

浜名湖賞



シリーズ展開

予選トップ通過は丸野一樹。2位に濱野谷憲吾、3位に峰竜太が続ぎ、準優1枠を手に入れた。ただ、準優10、11Rは波乱の展開に。10Rは峰が深谷知博に2コースから差し切られて2着。11Rは濱野谷が6枠からピット離れて2コースに入った安河内将に差されて、さらに3周2Mで片岡雅裕に逆転を許して痛恨の3着。対して、丸野は12Rを危なげなく逃げて優勝戦の1枠を手に入れた。優勝戦は3枠安河内と6枠塩田北斗がピット離れ仕様の調整を示唆。本番は安河内が準優と同様に飛び出したもののインを奪うまでには至らず、132・456の進入となった。1Mはイン先マイの丸野に対して、深谷が3コースからこん身のまくり差しを送り込んだが、あと1歩及ばず。丸野が2節連続の周年記念Vを達成した。

現場記者の目

丸野がとにかく絶好調だ。丸野メモリアル終了時点の獲得賞金ランクは18位以内に遠く及ばず。グランプリ出場は夢のまた夢だったのが、今回のVで17位に浮上。2年ぶりの大舞台が現実味を帯びてきた。転機となったのは8月末の蒲郡一般戦でフライングを切ったこと。「フライング休みまでどうレースに取り組むかと考えるようになってから吹っ切れたし、いい意味で流れが変わりました」。さかのぼること7月には同県同期の片橋幸貴が江戸川MB大賞で特別戦初V。「SG(若松クラシック)と一緒に走ろう」とエールを送られたことも発奮材料になっていた。その後の快進撃は、皆さんも存じの通り。年末までノーリミッターで突っ走ると思うのは筆者だけではない。
(MOCHI)

着	人気	艇番	選手名	年齢	支部	今回成績	進入	ST
1	◎	①	丸野 一樹	33	滋賀	3112411	1	11
2	○	②	深谷 知博	36	静岡	4151121	3	07
3	△	④	峰 竜太	39	佐賀	1312322	4	09
4		⑤	片岡 雅裕	38	香川	2316322	5	13
5	×	③	安河内 将	34	佐賀	2434331	2	10
6		⑥	塩田 北斗	36	福岡	1422622	6	17
2連単			①-②	350円	1番人気	逃げ		
3連単			①-②-④	670円	1番人気			

吉田拓郎が強S攻勢でまくり快勝
昨年6月以来の特別戦Vを飾った



びわこ

10/15~20

G II

秩父宮妃記念



着	人気	艇番	選手名	年齢	支部	今回成績	進入	ST
1	×	④	吉田 拓郎	42	岡山	2423312	4	03
2	◎	①	大上 卓人	34	広島	1132421	1	11
3	○	②	馬場 貴也	40	滋賀	11421331	2	16
4		⑤	笠原 亮	44	静岡	6311532	5	10
5		⑥	井口 佳典	47	三重	23513353	6	11
6	△	③	田村 隆信	46	徳島	1214411	3	18
2連単		④-①	3600円	10番人気	まくり			
3連単		④-①-②	9880円	30番人気				

初日DR戦は遠藤エミが逃げ切
って1着。追配で参戦となった馬
場貴也、さらに大上卓人の両者が
連勝発進を決める。2日目DR戦
もイン片岡雅裕が1着もパワーは
劣勢ムード。一方で軽快な気配が
光るのは大上をはじめ柳生泰二、
田村隆信、安河内将あたり。女子
勢は遠藤が不安定な起しが課題
も、實森美祐が快パワーに仕上げ
てきた。4日目の予選ラストカ
ードで2着の大上が馬場を逆転して
予選首位に浮上。2位・馬場、3
位・田村が準優の1号艇に構える
結果となった。準優10Rは田村が
逃げ切って笠原亮が2着。11Rは
馬場が1着で深谷知博が2着も深
谷は不良航法で3着の井口が繰り
上がった優出する形に。12Rは吉
田拓郎がまくり差して一時は先行
したが、大上が2Mで逆転してフ
ィナルの1号艇を死守した。

優勝戦は枠なり3対3の進入隊
形から、4カド発進の吉田が他艇
を置き去りにするようなコンマ03
の強S攻勢へ。スロー勢を一気に
飲み込んで1Mを先マイすると、
そのまま独走状態に持ち込みVゴ
ールを駆け抜けた。「S力でメシ
を食っているんでね。最近では自
分の勘を信じていいSがいていて
し、それを生かすことができよ
かった」と、陰りのない速攻力
で昨年6月の蒲郡周年以来となる特
別戦V。「今年はSG、GIでま
ったく活躍ができなかったから、
来年こそは活躍したい」と意気込
む2025年の激走に注目だ。
また、優勝戦では吉田と笠原以
外の4人が中間整備で上昇したモ
ーター。多くは2連対率20〜30%
台だけに、やはりパワー相場に関
する情報チェックは不可欠だろ
う。(ケフ)

シリーズ展開

現場記者の目

エース71号機を手到大暴れ！
丸野一樹が王道のイン逃げV



徳山

9/24~29

G I

徳山クラウン争奪戦



着	人気	艇番	選手名	年齢	支部	今回成績	進入	ST
1	◎	①	丸野 一樹	33	滋賀	1241311	1	19
2	△	③	白井 英治	47	山口	1333131	3	18
3	○	②	峰 竜太	39	佐賀	2214221	2	16
4		⑤	上條 暢嵩	30	大阪	6121242	5	16
5	×	④	池田 浩二	46	愛知	2622132	4	15
6		⑥	吉川 元浩	52	兵庫	3334312	6	08
2連単		①-③	450円	2番人気	逃げ			
3連単		①-③-②	950円	3番人気				

初日ドリーム戦は地元の白井英
治がイン逃げで制し、2日目は峰
竜太が速攻で圧倒。主役を担う両
雄が幸先のいい滑り出しとなっ
た。両者ともそのまま大崩れなく
勝ち進み、峰が2位、白井が3位
で予選を突破。ともに準優の好枠
をゲットした。ただ、それを上回
る活躍だったのがエース71号機を
擁する丸野一樹。予選首位通過へ
1着がノルマだった4日目10Rを
イン逃げで完勝。1位で準優に進
んだ。そして準優10Rでも全員が
ゼロ台スタートの厳しい攻防だっ
たがきっちり逃げて優勝戦のポ
ルポジションを獲得した。その
勢いそのまま優勝戦でも速攻を決
めて今年初のGI V。獲得賞金は
5000万円を超え22位までジャ
ンプアップ。2着は白井、3着は
峰。シリーズを盛り上げたメンバ
ー内枠3人での決着だった。

丸野一樹はSGチャレンジカッ
プがF休みと重なるためグラン
プリ出場へは、徳山、浜名湖GI、
そしてSGダービーの3節で絶対
に結果を残さなければならぬ状
況だった。本人も意識していて前
検日から「絶対にグランプリに行
く」とかなりの気合だったが、ま
さに有言実行の活躍だった。その
後、丸野は続く浜名湖も優勝。さ
らに獲得賞金額を上積みしてグラ
ンプリ出場圏内に浮上。絶好のリ
ズムで最終勝負となるダービーに
挑むことになった。
フライングを切ったのが8月
末。「あのFで吹っ切れた。覚悟
が決まった」と強い気持ちを持ち、
その後の、三国GI、徳山、浜名
湖GIでV。このメンタルを武器
に年末の舞台に立っていることを
期待したい。(日刊・測上)

シリーズ展開

現場記者の目

若松をこよなく愛する
西山貴浩悲願の地元GI初制覇！



若松

9/27~10/2

GI

全日本覇者決定戦



シリーズ展開

初日は瓜生正義、2日目は山口剛がドリーム戦を制したが山口の方はドクターストップで3日目に帰郷、瓜生は予選3位通過と暗闇が分かれた。3日目まで得点率トップを独走したのは下條雄太郎だったが、4日目に着を落としたうえ、不良航法も取られて予選トップ争いから脱落。3日目に連勝するなど予選で3勝をマークしていた西山貴浩が予選トップに浮上。当地オールスターで準優勝の実績がある佐藤翼が2位に食い込んだ。準優は瓜生が1号艇だった9Rで大波乱。2コースの前田将太がコンマ05のスタートで瓜生を沈めた。佐藤と西山はしっかりと逃げて人気に応え、西山が優勝戦1号艇をゲット。最後までインからきっちり逃げ切り悲願の地元周年初制覇。2着には森高一真が食い込んでポンコツ会ワンツースーに。

現場記者の目

今年は整備の当たり年です上位機が例年の倍以上で20基近くあったのだが、V候補とも言えるドリーム組で上位機を手にしたのは地元瓜生正義と羽野直也の2人だけ。ほとんどが伏兵陣の手に渡ったこともあり、Wドリーム組は予選で5人が脱落した。優勝した西山貴浩も抽選には恵まれておらず、実際に出走がそこそこの程度の仕上がりでも威張れるパワーではなく、優勝戦当日も篠崎元志と試運転してぶつちぎられていたとか。優出を逃して西山の応援にまわっていた地元勢のほとんどが「大丈夫だろうか？」と心配していたという。それでも西山はしっかりと逃げた。まさしく気迫の勝利。荒れる予報だった水面が落ち着いていたことも西山に味方。この優勝でグランプリもほぼ当確に。

(スポーツ報知・井上誠之)

着	人気	艇番	選手名	年齢	支部	今回成績	進出	ST
1	◎	①	西山 貴浩	37	福岡	1321141	1	13
2	×	④	森高 一真	46	香川	4351332	4	18
3	○	③	前田 将太	36	福岡	3122221	3	16
4	△	②	佐藤 翼	36	埼玉	1223311	2	17
5		⑥	山田 祐也	35	徳島	2235512	6	15
6		⑤	岡村 仁	40	大阪	3622262	5	15
2連単	①-④		680円	3番人気	逃げ			
3連単	①-④-③		2070円	7番人気				

BOAT RACE 若松 外向発売所 カッパ★ピア リニューアルオープン



有料スタンダードルーム(定員6人)

11月1日、ポートレース若松外向発売所カッパ★ピアが移転し、リニューアルオープンした。もともと東スタンド側にあったが、本場からやや離れた位置に移設し、広くなった。さらに以前は無かった有料席が新設され、サービスも充実し、舟券に没頭できる環境が整った。有料席はWeb予約ができるようになり、更に便利に利用できる。ポートレース若松が開催する全レースはもちろん、SG・GⅠをはじめ全国で開催されるレースの舟券を発売。モーニングレース、デイレース、ナイトレースと多彩なポートレースをカッパ★ピアで楽しんでみては。



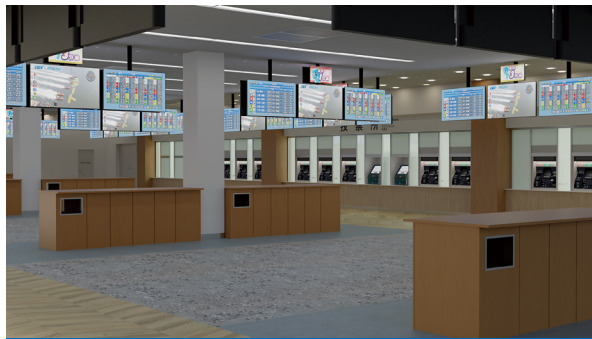
【有料席サービス】

- ・Web予約可能
- ・在席投票端末全席設置(かっぱくんカード限定)
- ・Wi-Fi完備
- ・充電可能
- ・フリードリンク
- ・紙おしぼり
- ・スリッパ貸出

※20歳未満(乳幼児を含む)は入場不可

【アクセス】

- ・JR折尾駅から無料シャトルバスを運行
- ・JR筑豊線 奥洞海駅 下車 徒歩6分



1F投票ホール